

## 山下繁雄が描いた郡山城

郡山城では、4月22日に番屋カフェがオープンしました。こだわりの水出しコーヒーに名物花菱プリン、御殿カレー。軽食のサンドイッチやモーニングセットもご好評をいただいています。夏にはかき氷も提供予定です。天守台の石垣がきれいに見える絶好のロケーションですので、郡山城・柳沢文庫にお立ち寄りの際はぜひご利用ください。



「番屋」をリニューアルした番屋カフェ



テラス席からぞむ天守台



御殿カレー

さて、今号では絵画作品「郡山城址初秋」をご紹介します。作者の山下繁雄（1883～1958、号は平城繁雄とも）は軍鶏（闘鶏）の絵が得意で、奈良を愛した画家として知られます。本作品は、郡山城の毘沙門曲輪周辺を天守曲輪（本丸）側から描いた風景画で、番屋カフェのオープンにあわせて郡山南小学校からご寄贈いただきました。

絵の左に見える瓦ぶきの建物が「番屋」です。もとは堀之側（大和郡山市植櫻町）に所在する武家屋敷の長屋門の一部でしたが、のちに柳澤伯爵家が所有し、この地に移築しました。明治39年（1906）に造営された毘沙門曲輪内の伯爵邸（現在の柳沢文庫建物）周囲では果樹園が営まれており、その管理人が使用したために「番屋」と呼ばれるようになりました。

さらに昭和期に入ると、伯爵邸の北側に金魚池が建造されます。柳澤家の家紋をモチーフにした4つのひし形水槽の中心部には「四阿」を配し、観覧施設として活用されました。この「四阿」も堀之側からの移築で、絵では茅ぶきの建物として描かれています。金魚池は昭和40年（1965）に埋められてしましましたが、かつては皇族をはじめ各界の著名人たちも多数訪れる名所でした。

このように、「番屋」「四阿」とともに由緒ある建物ですが、時を経て損傷著しく、早期の改修が望まれていました。そこで、多くの皆様からのご支援を得て、昨年6月から庭園整備とあわせた工事を進め、この度完成となりました。山下画伯が描いた風景に思いを馳せながら、休憩施設として広くご活用いただければ幸いです。



「郡山城址初秋」山下繁雄

### 番屋カフェ

郡山城追手門向櫓前広場（柳沢文庫から徒歩すぐ）

営業時間：10時～16時（月・火曜は定休日）  
電話番号：0743-25-1545

※「郡山城址初秋」（複製）もご覧いただけます。

令和4年度（2022年度）前期企画展のご案内

## 「絵図集刊行記念 江戸時代の郡山城を読みとく」

会期：令和4年5月21日（土）～8月12日（金）

休館日：月曜・第4火曜日（ともに祝日の場合は開館）

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、状況に応じて休館する場合があります。  
詳細は柳沢文庫ホームページ（<http://www.mahoroba.ne.jp/~yngbunko>）のお知らせを見ていただくな  
お電話（0743-58-2171）でお問い合わせ下さい。

柳沢文庫では郡山城極楽橋の再建工事を契機とし、全国各地に伝来する郡山城の古絵図の収集・調査を進めてきました。調査の過程で様々な事実が明らかになりましたが、その成果は図録『郡山城絵図集—江戸時代の郡山城を読みとく—』（2021年12月、柳沢文庫）として刊行され、各方面でご活用いただいている。本展ではこの刊行を記念し、城絵図および関連古文書の紹介を通じ、江戸時代の郡山城の真実に迫ります。

展示をお楽しみいただくためのポイントとして、郡山城をめぐる歴史的背景についてご紹介します。

郡山城は、天下人織田信長の配下にあった筒井順慶が天正8年（1580）に築城し、同13年以降は大和・紀伊・和泉の3か国を領する豊臣秀長（秀吉の弟）の居城として拡張整備されました。ただし、この時期の郡山城に関しては絵図・古文書などの史料がほとんど発見されておらず、詳細はよくわかりません。

関ヶ原合戦後は徳川家康の管理下にあったようですが、慶長20年（1615）の大坂夏の陣の前後に焼失します。その後は徳川家の譜代大名である水野勝成（家康の従兄弟）、松平忠明（家康の外孫）、本多政勝が城主となり、江戸幕府の支援を得ながら再建整備を進めました。江戸時代初期の郡山城は、幕府による畿内統治戦略上の拠点として重視され、將軍から格別の信頼をうけた一門・譜代大名が城主に任命されたといえます。

さらに、將軍の京都上洛および奈良・大坂方面への視察に備え、本丸には將軍のための御成御殿が設置されました。そのため、城主は二の丸（現在の県立郡山高校）に住むようになりました。

その後は、幕府による全国統治が安定したことで平和な時代が訪れます。しかし、郡山城主には引き続き軍事的役割が期待され、京都・奈良・大坂などで非常事態が発生した際に、軍兵を率いて警備にあたる重責が課されました。そのため、幕府は有力譜代大名を配置する方針を貫き、政勝の死後の御家騒動（九六騒動）により混乱・弱体化した本多家は陸奥福島へ移されます。続いて松平信之が入城しますが、老中への抜擢にともない江戸定府を余儀なくされ、下野古河に転封。次の本多家（分家筋）は5代にわたり城主をつとめますが、享保8年（1723）、8歳の当主忠烈の死により断絶となりました。



本丸に設けられた將軍の御成御殿（「日本古城  
絵図 和州郡山城図」国立国会図書館）

この後をうけて甲斐より入封したのが柳澤吉里です。以後、幕末まで約140年間にわたり柳澤家6代が続きました。享保9年（1724）8月に入城した吉里は、さっそく10月に「留守間定」を制定し、郡山城の守備体制と留守を預かる家老・城代が守るべき心得を示します。全18条のうちの第1条は以下のように記され、その意気込みと緊張感がうかがえます（抄訳）。

郡山城は「大和一国の根城」であり、畿内五國の内でも大坂・南都（奈良）・堺に近く、とくに京都の「藩屏」としての任を与えられている。よって、家老・城代は「守国護城」の責任者として日ごろから堅固に治めなければならない。



柳澤吉里制定の「留守間定」（柳沢文庫）

さらに吉里は、曲輪や門の名前を一新しました。中国の靈獸にちなんだ「麒麟曲輪」「玄武曲輪」「白沢門」、風雅な印象の「松陰門」「梅林門」「竹林門」「砂子の前櫓」などの名称からは、学問や和歌を愛した吉里ならではのこだわりが感じられます。とくに城内で最も高所に位置する麒麟曲輪には、学問の師でもあった5代將軍徳川綱吉の位牌をまつりました。また、現在柳沢文庫が所在する一角は、武神として名高い毘沙門天にちなみ「毘沙門曲輪」と改名しました。まさに城防衛の要であることを象徴した名称といえるでしょう。当時の柳澤家では、旧主武田信玄の影響もあって毘沙門信仰が盛んでした。

このほかに城主が住まう二の丸屋形の構成や、城の内外で火事が起こった際の取り決めなどに関する史料もご紹介します。

郡山城の構造や各曲輪の役割、守備体制については、基礎的事項も含め、これまで十分に明らかにされていませんでした。城主の目まぐるしい交代に加え、幕末の火災や明治期以後の廃藩置県の過程で多くの古文書・記録類が失われたことがその要因といえますが、語り継がれた伝説や発掘成果の一部が誇張して語られてしまうことも多く、確かな歴史資料を用いた分析がなされる機会は少なかったようです。まだ研究途上ですが、「ここまでわかった！」という点について、パネルなどでまとめていますので、ぜひお立ち寄りください。

なお、上記の享保9年の柳澤家が入城した時期に書かれたのが、柳沢淇園（曾祢里恭、柳澤吉保・吉里・信鴻に仕えた）の著名な隨筆『ひとりね』です。当代一流の文人画家「柳里恭」として名を馳せた彼は指墨（絵筆を使わず指で描いた水墨画）の名手としても有名ですが、その作品もあわせてお楽しみください。



柳里恭筆（指墨）「墨竹図」（柳沢文庫）

# ★お知らせ★

## 令和4年度(2022年度) 柳沢文庫歴史塾(郡山学)

第1回 令和4年7月2日(土) 14:00 ~ 15:30

郡山城あれこれー郡山城図の調査を終えてー

講師 佐竹朋子氏

(柳沢文庫特命研究員・東京大学史料編纂所特任研究員) 定員 90名(事前申込必要。定員を超えた場合は抽選)

会場 DMG MORI やまと郡山城ホール レセプションホール

参加費 200円 ※柳沢文庫友の会会員の方は参加費無料です。

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の観点から、開催を延期または中止とすることがあります。詳細はホームページのお知らせを見てくださいか、お電話でお問い合わせ下さい。

### 〈申込方法〉

【一般】住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、申込受付期間中必着で、往復葉書にてお申し込み下さい。※期間外の申込は受付いたしません。

宛先:〒639-1011 奈良県大和郡山市城内町2-18 柳沢文庫歴史塾係  
申込期間:令和4年6月1日~6月14日(必着)

【友の会会員】専用申込はがきにて6月14日必着にてお申し込み下さい。



## 柳沢文庫販売物ご案内



※()は友の会会員価格です。表記のないものは割引はありません。

『郡山城絵図集  
—江戸時代の郡山城を読みとく—』  
2,500円(2,250円)

『柳沢文庫収蔵品図録』2,000円(1,800円)

秋季特別展「筒井順慶」図録1,000円(900円)

「柳澤吉保没後三〇〇年記念 柳澤家伝来の名品」展 図録  
500円(450円)

『柳沢文庫収蔵品目録 軍令』1,500円

『柳沢文庫収蔵品目録 軸幅』1,800円

『柳澤藩家老「敷田家文書」の目録と解題』3,500円

『柳澤吉保の一面』400円(320円)

柳沢史料集成

第5巻 4,000円(3,200円)

第6巻~第7巻 5,000円(4,000円)

第8巻~第10巻 7,000円(5,600円)

『大和郡山城天守台石垣岩石種調査報告書』700円(560円)

『大和郡山藩主松平(柳澤)甲斐守保光  
—茶の湯と和歌を愛した文人大名 堂山』700円(560円)

『史料募集 楽只堂年録』

第1巻~第3巻 13,000円(10,400円)

第4巻~第8巻 14,000円(11,200円)

第9巻 15,000円(12,000円)

『江戸に生きて—正親町天守の半生—』1,000円

絵図セット(和州郡山藩家中図・享保家中図・大和郡山城)  
500円(400円)

ポスター 郡山城絵図の世界 第二版 500円(400円)

御殿だるまシール 100円

クリアファイル

・和州郡山藩家中図/柳澤信鴻筆 牡丹錦鶴図/徳川綱吉筆 過則勿憚改 各350円

・和州郡山藩家中図・牡丹錦鶴図・過則勿憚改3枚セット 1,000円

・郡山城極楽橋モノクロ 200円/カラー 350円

・山下繁雄筆 郡山城址初秋 350円

絵はがき「城跡景観」8枚セット 500円(400円)

郡山城來訪記念証(御城印) 300円 ※文庫受付のみにて販売



【来訪記念証】  
【クリアファイル】



郡山城極楽橋(モノクロ・カラー)



郡山城址初秋

\*柳沢文庫では、友の会会員を募集しています。 年会費一般1,500円/学生750円